



た なか かず よし
田 中 千 福

けん と
県都クラブ

がん検診の受診率を上げる取り組みは

問 アメリカでは、国をあげての取り組みにより、90年代前半からがんによる死亡が減少に転じている。

日本とアメリカの医療レベルは変わらないのに、日本では増加傾向が続いている。

がん検診の受診率の違いが、要因の一つであるとも言われており、本市のがん検診受診率を上げる取り組みについて伺う。

答 平成27年2月に中小企業の従業員やその家族が加入している協会けんぽ三重支部と若い世代からの健康づくりの推進に向けた包括的連携に関する協定を締結し、本市のがん検診と協会けんぽの特定健診の同時実施の機会を設け、受診勧奨を行っている。今後も相互に連携・協力し、受診しやすい体制づくりについて協議を重ねていく。

また、20歳の女性に子宮がん検診、40歳の女性に乳がん検診、40歳・45歳・50歳・55歳・60歳の男女に大腸がん検診の無料クーポン券を送付するとともに、未受診者には再度はがきを郵送し受診勧奨を行っている。

さらに若い世代の受診率向上のため、幼児健診などの親子が集まる機会に受診啓発を行っている。

●その他の質疑・質問●

- 農業委員の適格者の要件は
- 農業委員と農地利用最適化委員の役割は何か
- 災害査定の基準は
- 建設事業災害と農林事業災害の補助率と受益者負担率は
- 市単独災害の地元負担軽減を
- 日本型直接支払制度の活用状況と成果を上げている事例は
- 獣害対策を農業振興地域外まで拡充できないか など



▲がん検診が受診できる協力医療機関



か どう み え こ
加藤 美江子

こうめいどう き いんだん
公明党議員団

障がい福祉のため本庁舎ロビーの活用を

問 平成28年4月に障がい者への差別や偏見をなくし、共生社会の実現を目指す「障害者差別解消法」が施行される。この法律の趣旨を踏まえて、わが市も先んじて、どのような視点が必要かを考えていくべきである。

そこで、庁舎等の一角で障がい福祉サービス事業所で働いている方が作っているパン、クッキー、野菜、小物などの販売を実施しては。

答 市庁舎での販売については、障がい者の自立、社会参加はもとより、障がい者に対する理解促進につながるものとして、他市でも徐々にその取り組みは広がっている。特定の事業所の製品を販売するのではなく、全事業所が一体となって取り組みが進められ、就労系の障がい福祉サービスを利用する全ての方に広がっていくような事前の体制づくりが必要であり、現在、三重県社会就労センター協議会津支部の代表者を中心にその体制づくりをお願いしているところである。庁舎ロビーでの販売は、他市での事例もあり解決できない問題はないと思っている。時間や曜日を決めてロビーで販売をするなど、いろいろな選択肢も含めて検討していく。

●その他の質疑・質問●

- がん対策について
 - 乳がん、子宮がん検診の受診率と今後の受診率の向上に向けての対策は
- 産後ケア事業について
 - 産後ケア事業の進捗状況と今後の課題は
- 防災意識の向上について
 - 教育現場での防災教育と防災用備蓄品の配備状況は
- 新規就農者への支援は など



▲沖縄県浦添市役所で行われている庁舎ロビーでの販売